



▲マッキンリーに出発する植村直己。アラスカ・タルキートナの飛行場で。1984年1月下旬

2014年（平成26年）

**2月1日**田~**3月1日**田

開館時間 午前10:00 ~ 午後6:00 ※月曜休館  
(展示室への入室は午後5:30まで)

**3月2日**日 没後30年・メモリアル上映会

【上映開始時間】10時 / 12時 / 14時 / 16時 **入れ替え制**

\*2階展示室での上映です。展示はご覧いただけません。

\*上映作品などの詳細はお問い合わせください。

マッキンリーに消えた

植村直己の足跡

メモリアル展示  
山頂に  
残された

**旗**



**植村冒険館**

公益財団法人植村記念財団

〒174-0046 東京都板橋区蓮根2-21-5

TEL.03-3969-7421 FAX.03-5994-4916

ホームページ: [www.uemura-museum-tokyo.jp](http://www.uemura-museum-tokyo.jp)

**入場  
無料**

写真提供=文藝春秋

# あれから30年のマッキンリー

冒険家・植村直己が真冬のマッキンリーに登頂後、姿を消したのは昭和59年(1984年)2月のことです。この年も冬のオリンピックが開催され、ユーゴスラビア(現・ボスニア・ヘルツェゴビナ)のサラエボでの日本人選手の活躍が紙面を飾っていました。

植村さんも日本から遠く離れたアラスカで厳しい寒さと悪天候のなか、ひとり頂上をめざして進んでいました。そして2月12日の43歳の誕生日、6194メートルの山頂に日の丸と星条旗を立て、世界初の厳冬期マッキンリー単独登頂を達成しました。しかし、翌日の2月13日にこの登頂成功を伝える無線交信後、消息は途切れしました。仲間たちの命がけの捜索にもかかわらず、植村さんはついに見つからず、装備と山頂に残された旗が日本に持ち帰られました。

あれから30年の歳月が経ちました。30年という時間は、技術や社会構造が変化するだけでなく、私たち自身も年齢を重ねるのに十分な長さがありました。それでもなお、植村直己という冒険家を忘れずに記憶しているみなさんと、この思い出を共有できればと思います。1年で最も寒い季節に極北の山に挑んだ植村直己の記録をご紹介します。



(左)出発する植村直己  
(右上)山頂で発見された日の丸  
(右下)発見された装備

## 主な展示品

- ▶ マッキンリー山中で発見された装備、山頂に残された旗、行動中に植村直己が書いた最後の日記(中面を拡大して展示)(いずれも実物)
- ▶ DVD上映「植村直己の世界」テレビ朝日/2004年/70分【上映開始時間・2月1日~3月1日】10時30分/11時40分/13時00分/14時10分/15時20分/16時30分(17時40分終了)

## 植村冒険館

板橋に暮らし、ここから数々の冒険へと旅立っていった冒険家・植村直己さんはその生涯にわたって人間の可能性に挑み続けました。板橋区は植村さんのご家族から約1500点におよぶ資料の寄贈を受け、1992年(平成4年)に植村記念財団を設立しました。財団では、どのような状況におかれても人間らしい豊かな心で最善の努力をする冒険精神を伝えるために、彼の冒険を紹介する企画展示や自然を体験する事業を行っています。

ホームページ [www.uemura-museum-tokyo.jp](http://www.uemura-museum-tokyo.jp)



## 出張展示「冒険家・植村直己の足跡」

写真を中心とした出張展示を開催します

**会場** モンベル渋谷店5階サロン  
東京都渋谷区宇田川町11-5  
(渋谷駅より徒歩8分)

**入場無料**

**会期** 平成26年2月7日(金)~2月13日(木)  
11時~20時 \*最終日は15時まで

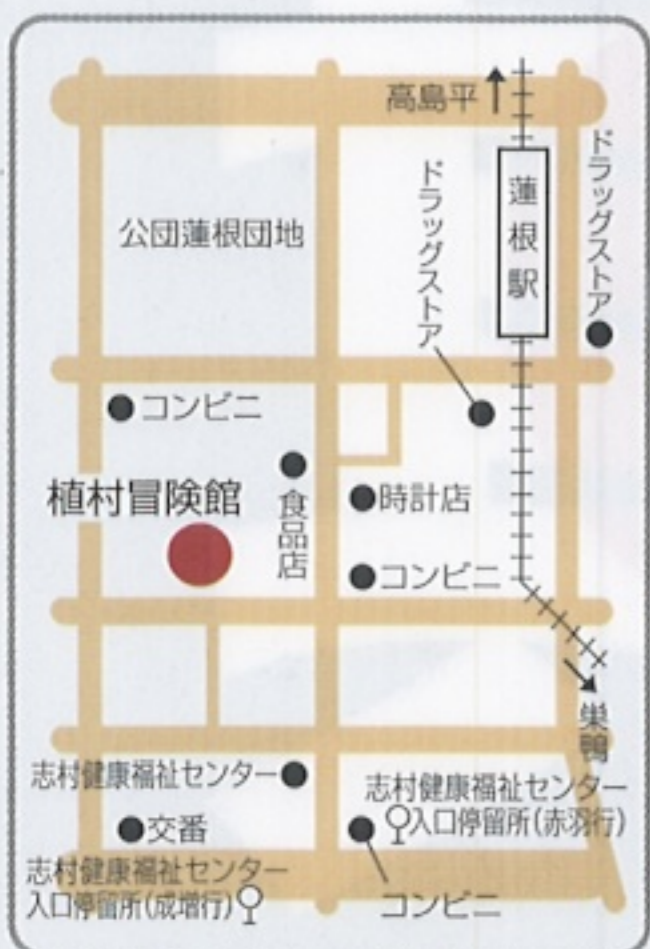
## 展示室

2階展示室 年4回テーマを替えて、植村直己の冒険を紹介する企画展示を開催しています。



## 情報コーナー

1階情報コーナー 冒険、探検、登山、アウトドアに関する書籍を集めた「冒険図書館」です。



■所在地  
■開館時間  
■休館日  
■交通のご案内

東京都板橋区蓮根2-21-5 ■電話 03-3969-7421  
午前10時~午後6時(展示室への入館は午後5時30分まで)  
毎週月曜日(祝日の場合は開館し翌日休館) ■入場無料

都営地下鉄三田線 蓮根駅下車 徒歩5分  
東武東上線成増駅北口・JR赤羽駅西口よりバス(国際興業バス)  
志村健康福祉センター入口停留所下車 徒歩5分